

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101133		
法人名	社会福祉法人 さわやか会		
事業所名	グループホーム 昇陽館		
所在地	山口県下関市長府黒門南町6番54号		
自己評価作成日	平成 25年 10月 29日	評価結果市町受理日	平成26年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 25年 11月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・複合的建物(5階建ての2階部分)なので、他事行所(特定施設)との連携がスムーズに取れる事は家族様を安心させている点の一つです。瀬戸内海を眺めるロケーションは市内でも好評です。ゆつたりとベランダで日光浴や行きかう数々の船舶を見て穏やかに過ごされています。スタッフのスキルアップへの取り組み方、内部・外部研修への積極的な参加など全員で行うように意識統一が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の資質の向上を目標に掲げられ、述べ16回の外部研修に全職員が参加できるように取り組んでおられる他、応急手当や初期対応の訓練に法人全体で取り組まれ、毎月4回同じテーマで開催して全職員が毎月必ず受講できるよう工夫しておられ、職員の研修に対する姿勢が変わり、自己研鑽力の向上につながっておられます。運動会や作品づくりなどを通したユニット間の交流(満干交流)や、運営推進会議メンバーなどのボランティアや家族を招いた「焼き芋会」、今年から新たに取り組んだ「夕涼み会」など、日々の関わりの中で職員と利用者が交流しておられ、理念に基づいた「笑顔で楽しく穏やかな」暮らしを継続できるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所の理念は、入口に掲示もしているが、法人の理念と混同している(特に入社間もないスタッフ)為、再度研修し共用している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を事業所内に掲示し、管理者が指導して共有に努め、地域の人とのふれあいを大切にして、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・幼稚園、高校生、ボランティア等との交流は多いが、地域住民の皆様との交流は、長府レトロ祭り、夏祭り、文化祭等で行っている。	地域のレトロ祭りに職員が出店し、利用者は見学に行っている。事業所の夏祭りや文化祭に地域の人が来訪し交流している。法人施設に来訪する幼稚園児の発表会を見学したり、高校生やボランティアと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内の見学は、毎日でも受け入れ可能で、来所時は、認知症やグループホームの説明を行い理解をお願いしてから見学までして頂いている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・改善に取り組んでいるが、好結果とは思えない。しかし、全スタッフへの通達は出来ていて、少しずつスキルアップはしている。	管理者がガイド集を使って15分程説明し、自己評価のための書類を職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめている。外部評価結果はミーティングで職員に報告し、目標達成計画は管理者が作成している。評価を活かすよう努めているが、全職員での取り組みでなく、評価項目の理解も十分とはいえない。	・全職員での取り組み ・評価の意義と項目の理解
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・参加ボランティアの少しずつの増員で、周知や新しい意見を取り入れを行いサービスの向上に生かしている。全スタッフへ伝え意識の統一、向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、現状報告、行事報告、ヒヤリハット報告などを行い、意見交換をしている。今年から地域の人や専門知識を有する協力者(個人ケアマネ)4名がメンバーとして加わった。服薬管理についてのアドバイスを受け、ケアに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・事業所係りへ出向き、常に相談して、記録様式、方法、サービスの改善点などに意見を求め指導を仰いでいる。	市担当課へは書類を持参して出向き、報告や相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時などで情報交換をするなど、連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・グループホーム独自に研修も行い、理解を深めて拘束(0)を実践している。ただし、玄関の施錠に関しては担当官へ報告し、家族様へ説明して了解を得ている。	年1回全職員が研修で学び、身体拘束をしないケアについて理解して取り組んでいる。スピーチロックなど気になるところは管理者が指導している。市担当課や家族の了解を得て、玄関の施錠をしているが、外出したい人とは一緒に散歩するなど工夫して支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修・外部研修へ積極的に参加し、全スタッフが理解を深め注意を払っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度利用されている方も居られます。独居や生活保護等の方は居られませんので、積極的な支援は行っていません。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が行っており、納得頂ける迄説明を繰り返し、不安の軽減、疑問の解消後に契約を交わしています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に現状報告を行い、家族様との意思の疎通を図り、苦情を受け付けた際は、施設長や全スタッフへ直ちに報告を行い、経過・結果を記録に残し、周知するように努めています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め契約時に家族に説明している。電話やはがきで行事の案内をして、面会時に利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞く機会を設けている。意見や要望があったときは苦情処理受付書で全職員が共有し、反映させるように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日報により、意見や提案を抽出し、申し送り時に改善点や方法を協議し記録しています。月に一回のミーティングでは大掛かりな変更の提案や方向性も話し合っています。	月1回のミーティングや申し送り時に意見や提案を聞き、連絡帳に記録して共有している。利用者のケアに関する意見や行事についての提案などがあり、利用者のタイミングに合わせて入浴の支援ができるように入浴時間を延長するなど、意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・労使の満足度の相違はあるが、向上、改善、整備はされていると思います。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修・外部研修への積極的な参加を促し、全スタッフへ伝達する事でスキルアップを図っています。	外部研修は全職員がローテーションで参加し、ミーティングで復命している。法人研修は看護師が指導する応急手当や初期対応の訓練に月1回参加している。内部研修は身体拘束や虐待防止について実施している。新人研修は法人で基本理念や接遇、腰痛防止などについて5日間学んでいる。業務の担当制をとり、習得したことを他の職員に指導して、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・介護福祉士会やグループホーム協会の講演会や見学会へ参加して、他事行所の情報を共用して質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・アセスメント時に、広範囲な情報を家族様より収集して、利用者様の要望、内面の理解を深めるように伝達している。まずは傾聴から始めるように指示を出しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居されることで家族様の不満は減少するでしょうが、逆に不安が膨らむと思います。面会時だけでなく、現状報告を密に行い、安心して頂ける様な対応をしています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・アセスメントから抽出したサービス計画（暫定）を作成し、家族様に了解を得て方向性を決定しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・同じ食事を摂り、同じ時間を供用する様なレクリエーションへの参加、笑顔や笑い声が絶えない空間作りをお手伝い頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時間の取り決めはなく、外出(泊)の自由は確保されており、家族様へ行事への参加を依頼したり、個ではなく連帯できる支援を行っています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前利用していた事業所を訪問し、知人や職員との談笑の場を提供したり、見慣れた景色を愉しみに外出する市内散策等の支援も行っています。	家族や親戚、友人、知人の来訪があり、手紙や電話での交流を支援している。家族の協力を得て、法事や家族との行事などへの参加、墓参り、馴染みの店での買い物、外食などの支援をしている。家族から情報を得て以前住んでいた町をドライブするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気が合う、話しが合う等笑顔がこぼれ、笑い声が出易い配置を心がけ、全員が顔を確認し合えるように支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時には、在籍中の様子をアルバムにし色紙を添えたりしています。家族様だけの後日訪問や、キーパーソンの方がさわやか会に勤務されている例もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来るだけ本音を聞き出せる様に傾聴し、可能な要望は全スタッフで実現する様に支援を行い、家族様へも協力を仰ぎ、困難な場合は同等な提案をしています。	日頃の会話の中から思いや意向の把握に努め、申し送りや連絡帳で共有し、職員同士で検討している他、介護計画見直しのアセスメントで確認している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴、趣味、趣向を家族様より情報を得て、現状との比較をモニタリングや担当者会議で検討しています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護日誌には、サービス提供内容も記載があり、担当者だけでなく全スタッフが把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者によるモニタリングや、定期的なミーティング、主治医へ意見を求め、家族様との面会時に資料を確認頂き、要望や提案を取り入れて作成しています。	本人や家族の思いや要望、意見を聞き、主治医の意見を参考にして、管理者や職員が参加する担当者会議で検討して、介護計画を作成している。利用者を担当する職員が月1回モニタリングを実施し、短期は6ヶ月毎、長期は1年毎に見直しをする他、状態の変化に合わせて見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護日誌の応用で、記録や一日の対応を全スタッフが確認できるので、情報の共有をし、イレギュラーな点は申し送り時に細かく説明を行っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・他事行所での催事へ参加して交流を図ったり、家族様と一緒に楽しんで頂く様な行事、温泉旅行、お弁当を作って貰って夕涼みに出掛けたりと各担当者を決めて企画しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地理的にも再々近隣地域を訪ねての交流が難しいのですが、夏祭りや文化祭、全館行事へは多くのボランティアの皆様の応援を頂いており、グループホームも参加しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・多種、多数の契約医の往診を基本に、主治医へ急変時の相談や、受診対応、家族様との連携を取って支援しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援している。協力医療機関から週1回、週2回、月1回の往診があり、緊急時の連携をとっている。歯科医の週1回の往診がある。看護師が主治医や家族と情報交換しながら服薬管理し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・夜間の状況を朝報告し、変化への対応や処置の指示を受けている。日中は、直ちに報告し家族様への報告と、主治医との連携で判断をして貰っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は、情報を提供(家族様同意済み)して、家族様と連携を図り早期退院への方向性を主治医と相談している。往診時に、状況を伺ったり、指示を貰う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケアは行っていないが、家族様や、主治医と常に話し合い、当事行所で可能な限りの支援は全て引き受けています。全介助の利用者様も以前は居られました。	事業所のできる事を契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医や家族、関係者が話し合い、移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	・事故報告書、ヒヤリハット報告書による状況の把握と確認を行い、全スタッフに注意を促し、各種研修へ積極的に参加する事で対応の方法を学んでいます。	事例が生じた場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、全職員が閲覧して、ミーティングで改善策について話し合っている。改善策を介護計画に反映して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。法人の看護師が指導する応急手当や初期対応の研修に月1回参加しているが、全職員が実践力を身につけるには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的な避難訓練を行い、全スタッフが誘導方法、場所の把握をして隣接他事行所との連携を図っています。	消防署の協力を得て年2回(内1回は夜間想定)、消火、通報、避難訓練を利用者も参加して法人合同で実施している。法人内の連絡網があり協力体制ができているが、地域との協力体制を築いているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・法人の方針である「様」付けを実践し、生活暦や性格をアセスメントより抽出して対応を行っています。	接遇研修に参加して学び、居室の出入時の声かけやトイレ誘導、入浴介助時などプライバシーの確保に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気付いたところは管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・声掛けの方向性は、依頼や要請にならない様にして、提案要望が出易くなる様な対応をしています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・画一的な援助ではなく、その日、その時の利用者様のペースに合わせて支援を行い、スタッフ誘導の支援は行わないように指示を出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・居室(利用者様)担当者による衣類整理や清掃のお手伝いをする事で季節感の演出や、整容、整髪の出来栄を声かけしています。毎月の訪問美容も利用されています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・スタッフも一緒に同じテーブルに座り、同じ物を食べるので会話や、大家族的な雰囲気を作っています。出来ること(食材切り)、盛り付け、下膳、食器洗い他お願いして一緒にして頂く様にお願いしています。	昼食は法人の配食を利用し、朝食と夕食は事業所で調理している。利用者は買い物や下ごしらえ、盛付け、下膳、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にして、同じテーブルで同じものを会話を楽しみながら食べている。月1回の誕生日食(寿司や天ぷら)、おやつづくり(ホットケーキやサツマイモの茶巾しぼり、たこ焼きなど)、温泉旅行の食事、外出行事での弁当、家族の協力を得ての夕食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量、水分摂取量は細かく記録を行っていて、不足の場合の補給が直ちに出来る様に対応しています。病歴によっては形態、量を主治医へ相談して実施しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・各利用者様の状況に合わせた口腔ケアを行っており、見守りや一部介助で実施。2軒の訪問歯科診療の契約もあります。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・細やかな記録を行っており、各利用者様のパターンを把握し、声掛けや誘導で失禁を減らしトイレでの排泄が出来る様な支援を行っています。	介護日誌の排泄チェック表でパターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便の記録があり、状況を把握し水分補給、運動などを行っています。予防の為に朝のティータイムではヨーグルトをお出ししたり、冷牛乳なども用意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・夕方から夜間は難しい為、時間帯はある程度決まっていますが、順番的な入浴は行わず、声かけ、確認後入浴して頂いています。平均週3回程度入られています。	10時から11時半と13時から16時半の間、隔日にゆったりと会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。入浴したくない人にはタイミングをみて声かけするなどの工夫をし、状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴などの支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入床時間の設定は無く、TVを見られたり、談笑などされたりして、利用者様の要望で居室へお誘いしています。日中は、離床を促しレクリエーションや運動を楽しんで頂いています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の情報は、ファイルがありスタッフが把握出来るようにしています。服薬前は必ず別のスタッフに配薬の確認をして貰い、服薬後の確認をする様にしています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来る部分の家事仕事の提供、得意なレクリエーションや運動への参加、他事業所での催事への訪問、外出などで変化の有る日常を提供して気分転換を図れる様な支援を行っています。	月1回の誕生日会、敬老会、母の日(家族会)、芋掘り、焼き芋、テレビ視聴(歌や相撲)、読書、カラオケ、ビーチバレー、ボール投げ、お手玉、満干交流会(ミニ運動会、作品づくり)、折り紙、貼り絵、壁画飾り、おやつづくり、リハビリ体操、口腔体操、食事の準備や片付けなど、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族様の応援を頂き、外出や外泊、近場へのドライブ、お弁当持参の長距離ドライブ、家族様同伴の温泉旅行等、色々な企画で外出の機会を提供しています。	初詣、花見(桜)、ドライブ(火の山展望台)、夕涼み会(きららビーチでの花火見物)、紅葉狩り、レトロまつりなど月1回は外出できるように支援する他、家族の協力を得て、温泉旅行や墓参り、外食、外泊などの支援をしている。法人の「喫茶の日」に参加したり、屋上から花火を見たりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・可能な限り、利用者様、家族様の要望に応じて所持して頂いています。多数の方は、グループホームの預かり金制度を活用して頂き、出費の確認を家族様にして貰っています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状、暑中見舞いなどグループホームで用意をして、可能な部分の記入をお願いして家族様へ出しています。要望があれば電話も取り次ぐように支援しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールからの眺望は、利用者様全員が喜ばれます。季節を感じて頂ける様に毎月一緒に壁画作りを行っています。清掃も汚れば直ちにどの場所でも素早く行うようにしています。	共用の空間はゆったりと広く、ソファやベランダのベンチに座って関門海峡をのんびり眺めることができる。壁面には行事を楽しむ利用者の写真を飾っている。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂、リビングと色分けしたホールがあり、椅子に座って景色を眺めたり、ソファに座ってテレビやビデオを観たり、他の利用者様と談笑などされています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、ギャッジベットの提供以外は利用者様や家族様の自由にして頂いて、馴染みの家具、備品の持ち込みや写真の貼付などをされています。	箆笥、衣装ケース、テレビ、ソファ、時計、本、DVDなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみなどを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・家事仕事や軽作業他の可能性を維持する為にサービス計画書で取り上げて全スタッフで支援したり、居室はプライベートゾーンとして確立しており、仲の良い方とお茶を飲んだりされています。施錠も内側から可能です。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム昇陽館

作成日： 平成 26年 4月 30日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	全職員で取り組み、外部研修(自己評価)の意義と項目の理解をする。	評価の意義と項目の内容を理解して、活用できるようになる。	全職員へ「外部評価ガイド集」を渡して、個人の改善点を抽出させて、半期ごとの面談の際に理解度・達成度を確認する。	1年間
2	35	全職員、個人スキルアップに対する研修への参加意識を継続させる。	全職員が、月に1回は研修に参加して報告(レポート)が提出出来るようになる。	法人内、外の各種研修を掲示して参加を促し、研修に参加できない場合は、各月間のヒヤリハット・事故についての理解と改善策の報告(レポート)をさせる。	1年間
3	36	地域との協力体制の構築。	非常時、災害時など地域の方の応援が依頼出来るようになる。	運営推進会議に参加を頂いている地域のボランティアの方々に、避難訓練に参加をお願いし、有事には応援を頼めるようにする。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。